

持続的企業価値創造と コーポレートガバナンス改革

一橋大学大学院特任教授
伊藤 邦雄

- *想定以上の反響があった「伊藤レポート」
- *企業価値をいかに高めるか
- *ROEに関する長年の誤解
- *日本企業の低収益の理由
- *資本コスト意識も薄かった
- *ROEを高めるにはどうするか
- *大事なことは企業と投資家の対話
- *コーポレートガバナンス強化の意味
- *ポイントはCFOを重視すること
- *バンク・ガバナンスとの訣別



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は三年ぶりぐらいになるかと思いますが、伊藤邦雄先生においでいただきました。

この数年、コーポレートガバナンスというところが言われて、最近ではフォルクスワーゲンの問題とか、東芝の問題とか、大きな事件も起きているわけですが、伊藤先生はそこら辺のところについてのご著書も出されておられます。たいへんお忙しくて、上場企業の役員も何社かされておられるということです。先ほど伺いましたら、三菱商事の株主総会では、初めて直接指名で質問をされたそうです。そういう意味で、ここにおいでの方々が知っている時代とはちょっと変わってきているかもしれません。そういうことも含めまして、最新の企業に

関する情報について今日はお話しいただけると
思います。

それでは伊藤先生、よろしくお願
いいたします。（拍手）

伊藤 ご紹介いただきました伊藤です。ど
うぞよろしくお願いいたします。

今日はこういうタイトルでお話しますけれども、タイトルは非常に硬くて申しわけありません。ただ、そんなに難しい話はいたしませんので、どうぞ気楽に聞いていただきたいと思います。

最初に、私自身が最近の動きについて、どんな感想、印象を持っているかについて皆さんにお話しさせていただいて本論に入っていきたいと思
います。